

維管束植物

維管束植物

● 概 説 ●

◆市内の植物相の特徴

「新潟市史 資料編12 自然 別冊」における新潟市植物目録によると、690種（シダ植物19種，種子植物671種）が収録されています。また，現市域の全域を対象として既存文献等の資料収集・整理を本市が独自に行った結果，記録が確認できる植物種は約1,700種（シダ植物125種，種子植物1,617種）です。地区別に見ると，新潟（佐潟などの湖沼，信濃川などの河川，海岸砂丘地），新津（新津丘陵），豊栄（福島潟），巻や岩室（角田・弥彦山塊）で記録されている種数が多くなっています。このような地区別の種数の違いは，環境の多様性ととも調査頻度や文献数の多少によるところが大きいです。

本市には，オニバスやアサザといった水辺や湿地に生育する植物が多く，これは湖沼や河川の多い沖積平野としての立地条件が反映されています。長い砂浜海岸と砂丘列を有することから，海浜植物も多く分布します。特に，本市が分布の南限であるバシクルモンや日本海側の北限であるツボクサなどが注目される植物として挙げられます。南西部の角田・弥彦山塊，南東部の新津丘陵といった丘陵・低山帯では，コナラ二次林やスギを中心とした植林地帯が広がっています。この中で，角田山は新潟平野から直接そびえ立ち，海岸沿いに位置し，海からの風の影響を受けるなど特徴的な立地条件であるため，暖地系と寒地系の植物の混生が目立つなど複雑な様相を呈しています。また，新津丘陵では，日本海側に分布が偏るいわゆる日本海要素の植物のみならず，暖温帯に分布する植物も多く分布します。

◆調査・選定の概要

本書では，新潟県が記載した667種のうちから152種，新潟市独自の36種，計188種を希少種として選定しました。評価の結果，野生絶滅20種，絶滅危惧Ⅰ類50種，絶滅危惧Ⅱ類61種，準絶滅危惧42種，地域個体群15種となりました。選定理由別の種数は，野生絶滅20種，減少139種，環境悪化5種，採取38種，希少16種，局限・孤立9種，分布限界20種，模式産地1種です（複数の理由による場合もあります）。

◆減少の原因

生育を脅かしている原因別の種数は、人の立入11種、採取35種、森林の改変35種、草地の減少21種、水湿地の減少86種、河川の改変30種、農地の改変83種、観光開発42種、一般開発40種、移入種の侵入1種、農薬使用45種、水質汚濁44種、その他4種です（複数の原因による場合もあります）。

野生絶滅である20種のうちの多くが、水生・湿生植物であり、水環境の影響を受けているものが多いです（水湿地の減少・水質汚濁・河川の改変）。次いで、農業関連による影響を受けているものが多いです（農地の改変・農薬使用）。

デンジソウ

デンジソウ科

Marsilea quadrifolia L.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 野生絶滅	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	-------------	-------------	---------------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

夏緑性の水生シダ。根茎はつる状に水中または泥中を横走する。葉は間隔をおいてほぼ直立して出る。4枚の葉片が四葉のクローバー状に並ぶ。葉片は長さ幅ともに1～2cm。葉の基部付近に大型の孢子嚢果をつける。



(平成15年)

撮影：市域内
写真提供：新潟市

【分布の状況】

市内 市内では、湖沼で確認されている（ただし、植栽された繁殖株である）。

その他 北海道，本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，観光開発，農薬使用，水質汚濁

オオアカウキクサ

アカウキクサ科

Azolla japonica Franch. et Savat.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	-------------	---------------	---------------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

浮遊性の水生シダ。茎は密に羽状に分枝し，長さは1.5～7cm。葉の表面に突起があることはなく，あってもわずかで，根には根毛がない。秋に全体が赤色になり，冬には先端部だけを残して枯れる。水中の葉の間に小粒状の孢子嚢群がつく。



撮影：市域外 写真提供：笹川 通博

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟地区で確認記録がある。

その他 本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，農薬使用，水質汚濁

ヒツジグサ

スイレン科

Nymphaea tetragona Georgi

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	-------------	---------------	----------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

多年草，浮葉植物。水底の泥中に主茎があり，先端から葉が束生する浮葉と沈水葉をもち，冬期は浮葉が枯れ，沈水葉のみとなる。浮葉は卵円形から楕円形で光沢があり，葉長は10～19cm。地下茎は塊状で横走しない。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟，豊栄，岩室，潟東及び巻地区で確認記録がある。

その他 北海道，本州，四国，九州に分布する。



撮影：市域外
写真提供：笹川 通博

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，観光開発，農薬使用，水質汚濁

【特記事項】

佐渡弥彦米山国定公園特別地域内指定植物

オグラノフサモ

アリノトウグサ科

Myriophyllum oguraense Miki

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	-------------	---------------	---------------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

水中茎がつる状に伸び，よく分枝する。沈水葉は鮮やかな緑色，無柄で，全長2～4cmの葉身が羽状に全裂し4～5輪生となる。花期は7～9月。花序を水面上に出し，雌雄同株で上部に雄性花序，下部に雌性花序がつく。夏から秋にかけて越冬用の殖芽を形成する。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていない。

その他 本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域外
写真提供：笹川 通博

【選定種解説】
維管束植物

ミツガシワ

ミツガシワ科

Menyanthes trifoliata L.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	-------------	---------------	----------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

多年草，抽水植物。葉は長柄で，基部鞘状であり，卵状楕円形の3小葉からなる。花期は7～8月で，総状花序に白い花をつけ，花弁の内側に長毛がある。株によって雌しべの長さが異なる長短花柱性（ヘテロスタイリー）を示す。

【分布の状況】

市内 市内では，用水路などで確認されているが，植栽されたものである。

その他 北海道，本州，九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，観光開発，農薬使用，水質汚濁

【特記事項】

佐渡弥彦米山国定公園特別地域内指定植物



撮影：市域内
写真提供：笹川 通博

ヒシモドキ

ゴマ科

Trapella sinensis Oliver

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧ⅠB類
-------	-------------	---------------	----------------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

多年草，浮葉植物。茎はひも状で分岐しながら水面に達して広がる。葉は対生し，沈水葉が披針形で，浮葉が三角形円形である。葉の色は光沢のある緑色で，縁は赤紫色を帯びる。花期は7～9月で，淡紅色の開放花と閉鎖花をつける。果実には長いかぎがある。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟，豊栄，岩室，潟東及び巻地区で確認記録がある。

その他 本州，四国，九州に分布する。



撮影：市域内
写真提供：笹川 通博

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，農地の改変，農薬使用，水質汚濁

サワギキョウ

キキョウ科

Lobelia sessilifolia Lamb.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	-------------	---------------	----------

【選定理由】

野生絶滅，採取

【形態など】

多年草。草丈は50～100cm。茎は太く，分枝しない。葉は無柄で多数互生し，披針形である。花期は8～9月で，茎上部に総状花序をつくり，濃紫色の花を多数つける。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟，豊栄及び巻地区で確認記録がある。

その他 北海道，本州，九州に分布する。

【減少等の原因】

採取，水湿地の減少，観光開発



撮影：市域外
写真提供：笹川 通博

マルバオモダカ

オモダカ科

Caldesia parnassifolia (Bassi ex L.) Parlat.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	-------------	---------------	---------------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

多年草，抽水～浮葉植物。葉身は卵円形で，先が尖らず，基部は心形で，辺縁は全縁である。花期は7～9月で，3枝を輪生して大きな円錐花序をつくり，長さは50～100cm。それぞれの枝に3弁の白い花を数個ずつ輪生する。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟地区，豊栄地区で確認記録がある。

その他 本州，四国，九州に分布する。



撮影：市域外
写真提供：笹川 通博

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，農薬使用，水質汚濁

スブタ

トチカガミ科

Blyxa echinosperma (Clarke) Hook. fil.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	-------------	---------------	---------------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

一年草，沈水植物。茎はほとんど伸びず，葉はすべて根生し，葉縁に微細な鋸歯がある。葉は多く，線状披針形であり，葉の色は緑または暗緑色である。花期は7～10月で，3弁の白い花を水面状に出して咲く。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟地区，豊栄地区で確認記録がある。

その他 本州，四国，九州，沖縄県に分布する。



撮影：市域外
写真提供：松岡 成久

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，農地の改変，農薬使用，水質汚濁

イトモ

ヒルムシロ科

Potamogeton berchtoldii Fieber

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 準絶滅危惧
-------	-------------	---------------	--------------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

多年草，沈水植物。地下茎から水中茎が分枝し，枝の先が不完全な殖芽となる。葉は互生し，無柄で線形，長さは2～6cmであり，先が尖る。花期は6～8月で，花穂を水面上に出すが，水中でもよく結実する。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟，豊栄，岩室，潟東及び巻地区で確認記録がある。

その他 北海道，本州，九州に分布する。



撮影：市域外 写真提供：石澤 進

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，農地の改変，農薬使用，水質汚濁

エゾヤナギモ

ヒルムシロ科

Potamogeton compressus L.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 —
-------	-------------	---------------	----------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

多年草，沈水植物。葉はすべて沈水葉で，線形，全縁，無柄であり，長さは6～12cm。茎が著しく扁平で，地下茎を欠く。



【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に豊栄地区で確認記録がある。

その他 北海道，本州（中部地方以北）に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域外 写真提供：浜 一朗

コバノヒルムシロ

ヒルムシロ科

Potamogeton cristatus Regel et Maack

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	-------------	---------------	---------------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

多年草，沈水～浮葉植物。浮葉は長楕円形の黄緑色で，長さは1.5～3cm，沈水葉は狭線形で，長さは4～6cm。地下茎は横に這い，一節おきに水中茎を出す。花期は6～9月で，水面上に1cm程度の穂状花序を出し，花被のない黄色の花を多数つける。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟，豊栄及び潟東地区で確認記録がある。

その他 本州，四国，九州に分布する。



撮影：市域外
写真提供：中村 俊之
有限会社ウェットランド研究所

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，農薬使用，水質汚濁

ササバモ

ヒルムシロ科

Potamogeton malaianus Miq.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 —
-------	-------------	---------------	----------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

多年草，沈水～浮葉植物。茎は円形で，葉は互生する。沈水葉は長楕円状線形～狭披針形で，葉先は鋭く，葉縁には鋸歯がある。ほとんどが沈水葉だが，水深が浅いと浮葉を生じることがある。花期は7～9月で，水面に長さ3～4cmの穂状花序を出す。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に豊栄地区で確認記録がある。

その他 北海道，本州，四国，九州，沖縄県に分布する。



撮影：市域外
写真提供：石澤 進

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，農地の改変，農薬使用，水質汚濁

ヒロハノエビモ

ヒルムシロ科

Potamogeton perfoliatus L.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	-------------	---------------	----------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

多年草，沈水植物。地下茎より水中茎を伸ばす。葉は互生し，披針形から広卵形で，葉身の基部が茎を抱くようにつく。花期は6～9月。種子または殖芽で越冬する。

【分布の状況】

市内 市内では，過去に湖沼で確認されている。

その他 北海道，本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域外
写真提供：浜 一郎

トリゲモ

イバラモ科

Najas minor L.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	-------------	---------------	---------------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

一年草，沈水植物。分枝を繰り返して伸びる。葉は糸状，長さは1～2cmで，葉縁に細かい鋸歯があり，分枝する節では3輪生状となり，通常外側へ著しく反り返る。雌雄同株で雄花に包鞘がある。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟，豊栄，潟東及び巻地区で確認記録がある。

その他 本州（関東地方以西），四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域外
写真提供：中村 俊之
有限会社ウェットランド研究所

ムジナスゲ

カヤツリグサ科

Carex lasiocarpa Ehrhart var. *occultane* (Franch.) Kükenth.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 地域個体群	環境省 —
-------	-------------	--------------	----------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

多年草。葉は幅が狭く，やや硬い。小穂は紫色を帯びた褐色で，上から1～4個が雄性で線形，下の1～2個は雌性で長楕円形である。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟地区で確認記録がある。

その他 北海道，本州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，農地の改変



撮影：市域外
写真提供：石澤 進

ツルスゲ

カヤツリグサ科

Carex pseudocuraica Fr. Schm.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 野生絶滅	環境省 —
-------	-------------	-------------	----------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

多年草。花茎には長さ0.5cm程度の小穂を5～8個つける。果胞は卵状楕円型で、嘴は短い。花後、茎は地上を長く伸び、節から枝を出す。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、過去に新潟地区、豊栄地区で確認記録がある。

その他 北海道、本州中部地方以北の日本海側に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少、農地の改変



撮影：市域内
写真提供：石澤 進

クマガイソウ

ラン科

Cryptopidium japonicum Thunb.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	-------------	---------------	---------------

【選定理由】

野生絶滅、採取

【形態など】

草丈は20～40cm、有毛。葉は扇円形で、放射状に多数の脈がある。花期は4～5月で、茎頂に淡黄緑色の大きな花が1個、横向きにつく。唇弁は大きな袋状で、紅紫色の脈がある。

【分布の状況】

市内 市内では、過去に新津丘陵や弥彦山系で確認記録がある。

その他 北海道西南部から九州に分布する。

【減少等の原因】

採取、森林の改変、観光開発

【特記事項】

佐渡弥彦米山国定公園特別地域内指定植物



撮影：市域外
写真提供：石澤 進

ミズトンボ

ラン科

Habenaria sagittifera Reichb. fil.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	-------------	---------------	---------------

【選定理由】

野生絶滅，採取

【形態など】

多年草。草丈は40～70cm。地下に新旧2個の球茎があり，茎は3稜形で直立する。葉は線形で，茎の下部に数枚互生する。花期は7～9月で，茎の先に長い距の淡緑色の花を総状に多数つける。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟地区で確認記録がある。

その他 北海道，本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

採取，水湿地の減少，観光開発

【特記事項】

佐渡弥彦米山国定公園特別地域内指定植物



撮影：市域外
写真提供：宮本 亮

ミズチドリ

ラン科

Platanthera hologlottis Maxim.

カテゴリー	新潟市 野生絶滅	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	-------------	---------------	----------

【選定理由】

野生絶滅

【形態など】

多年草。草丈は50～90cm。葉は互生し，線状披針形で，長さは10～20cm，淡緑色で光沢がある。花期は6～7月で，茎の上方に総状花序を出し，白色の香気のある花を多数つける。唇弁は短い舌形で肉質である。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟地区で確認記録がある。

その他 北海道，本州（中部地方以北），四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変

【特記事項】

佐渡弥彦米山国定公園特別地域内指定植物



撮影：市域外
写真提供：笹川 通博

【選定種解説】
維管束植物

ミズニラ

ミズニラ科

Isoetes japonica A. Br.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	---------------	--------------

【選定理由】

減少

【形態など】

沈水～湿生の夏緑性シダ。葉長10～30cmの葉を叢生する。葉は鮮緑色，円柱形で先は細く尖る。雌雄同株で，別々の葉の基部に大孢子嚢，小孢子嚢ができる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に確認記録がある。

その他 本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，観光開発，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域外
写真提供：笹川 通博

ハマハナヤスリ

ハナヤスリ科

Ophioglossum thermale Komarov

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少

【形態など】

海岸近くの湿った砂地に生える夏緑性のシダ。根茎は細く，短く，1～数枚の葉をつける。葉長は5～20cm。栄養葉は線形から狭い倒卵形で，最も幅の広い部分が中央より上にある。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟地区で確認記録がある。

その他 北海道，本州，四国，九州，沖縄県に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少



撮影：市域外
写真撮影：広沢 毅
稲城野草散策の会

シノブ

シノブ科

Davallia mariesii Moore ex Baker

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

採取

【形態など】

岩上や樹幹に着く夏緑性シダ。葉身は三角状卵形の3～4回羽状深裂で、ほとんど革質である。孢子嚢群は裂片に1個つく。根茎に線状披針形で灰褐色の鱗片が密につく。

【分布の状況】

市内 市内では、山地で確認されている。

その他 北海道、本州、四国、九州、沖縄県に分布する。

【減少等の原因】

採取、森林の改変

【特記事項】

「シノブ玉」や「つりシノブ」などの栽培手法により、古くから鑑賞用として親しまれている。



撮影：市域内
写真提供：刈屋 寿

ハイネズ

ヒノキ科

Juniperus conferta Parlatores

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少

【形態など】

常緑低木。枝は地面に沿って伸びる。葉は3輪生し、針状で基部は漸狭である。雌雄異株で、雄花は黄褐色、雌花は緑色を呈す。球果は液果状の球形である。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、過去に新潟地区、岩室地区で確認記録がある。

その他 北海道から島根県までの日本海側と岩手県から和歌山県までの太平洋側に分布する。

【減少等の原因】

人の立入



撮影：市域外
写真提供：(全体) 笹川 通博
(拡大) 石澤 進

マツグミ

ヤドリギ科

Taxillus kaempferi (DC.) Danser

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 —	環境省 —
-------	---------------	----------	----------

【選定理由】

希少

【形態など】

常緑低木。若い枝には褐色の短毛が密生するが、後に無毛となる。葉は通常対生し、葉身は倒披針形、全縁で葉先は丸い。枝の脇の集散花序に赤色の花を数個つける。果実は長さ約0.4cmの楕円状球形で、春から初夏に赤く熟す。ヤドリギの一種で、モミ、ツガ、マツなどの針葉樹の枝や幹に半寄生する。

【分布の状況】

市内 市内では、丘陵で確認されている。

その他 本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。

【減少等の原因】

森林の改変



撮影：市内
写真提供：石澤 進

ナガバノウナギツカミ

タデ科

Persicaria hastato-sagittata (Makino) Nakai

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	---------------	--------------

【選定理由】

減少

【形態など】

一年草。草丈は30～80cm。茎の下部は地を這い、上部は直立する。また、茎には下向きの短刺毛がある。葉は披針形または長楕円形で、鋭尖頭である。花期は9～10月で、枝の先に頭状花序を出し、紅紫色の花をつける。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、過去に豊栄地区で確認記録がある。

その他 本州、四国、九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少、農地の改変



撮影：市内
写真提供：石澤 進

ヤマコウバシ

クスノキ科

Lindera glauca (Sieb. et Zucc.) Bl.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少

【形態など】

落葉低木。樹高は2～5m、葉形は卵状楕円形で、長さは5～10cm、基部は広くさび型である。葉は上面が緑色で、下面が白色を呈す。黄褐色に黄葉し、落葉せずに越冬する。樹皮は灰茶色で平滑である。

【分布の状況】

市内 市内では、池沼周辺や農村集落付近で確認されている。

その他 本州（山形県以西）、四国、九州に分布する。

【減少等の原因】

一般開発



撮影：市域内
写真提供：石澤 進

フクジュソウ

キンポウゲ科

Adonis ramosa Franch.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少、採取

【形態など】

多年草。草丈は20cm程度で、茎は直立する。葉は互生し、3～4回羽状に細かく分裂する。花期は3～4月で、茎の先端部に1～数個の黄色い花をつける。花の径は4cm程度で、数個のがく片と20～30個の花弁がある。開花後に茎が伸びると同時に葉も大きく開き、夏には地上部がすべて枯れる。

【分布の状況】

市内 市内では、山地や丘陵で確認されている。

その他 北海道から九州に点在して分布する。

【減少等の原因】

採取、森林の改変、草地の減少

【特記事項】

佐渡弥彦米山国定公園特別地域内指定植物



撮影：市域内
写真提供：久原 泰雅

サンカヨウ

メギ科

Diphylleia grayi Fr. Schmidt

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 —	環境省 —
-------	---------------	----------	----------

【選定理由】

採取，希少，分布限界

【形態など】

多年草。草丈は30～40cm。葉は2枚で，長さが30cm程度になり，短い毛がある。地下茎はかぶ状で太く，多くのひげ根がある。花期は5～6月で，茎頂に白い花がかたまってつく。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に岩室地区，巻地区で確認記録がある。

その他 秋田県，山形県，新潟県，富山県，石川県といった本州日本海側に分布する。

【減少等の原因】

採取，森林の改変，一般開発

【特記事項】

佐渡弥彦米山国定公園特別地域内指定植物



撮影：市域外
写真提供：青木 繁伸

ジュンサイ

スイレン科

Brasenia schreberi J. F. Gmel.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少，採取

【形態など】

多年草，沈水植物。茎葉は粘液分泌毛に覆われ，若茎葉はガラクトースなどの多糖類で出来た寒天状の粘液物に包まれる。浮葉は楕円形で，長さは4～10cm，上面が緑色，下面が紫色である。花期は6～8月で，暗赤色の花をつける。

【分布の状況】

市内 市内では，池沼で確認されている。

その他 北海道や本州に広く分布する。

【減少等の原因】

採取，水湿地の減少，農地の改変，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域外
写真撮影：石澤 進

ハンゲショウ

ドクダミ科

Saururus chinensis (Lour.) Baill.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少, 採取

【形態など】

多年草。草丈は60～100cm。葉は互生し、卵状心形、長さは9～15cmである。夏期には葉の一部が黄白色になる。全株に独特な臭気がある。花期は6～7月で、小さい花が穂状につく。

【分布の状況】

市内 市内では、湖沼の岸部や湿地で確認されている。

その他 本州、四国、九州、屋久島、種子島に分布する。

【減少等の原因】

採取, 水湿地の減少, 農地の改変, 水質汚濁

【特記事項】

佐渡弥彦米山国定公園特別地域内指定植物



撮影：市域内
写真提供：久原 泰雅

ミズタガラシ

アブラナ科

Cardamine lyrata Bunge

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少, 局限・孤立

【形態など】

水田や水湿地に生える越年草。草丈は30～60cm。茎は直立するが、花後に倒れて地を這う。茎の基部からは細長い匍枝を伸ばす。葉は羽状複生で、長さは1～7cm。花期は4～6月で、総状花序に10～30個の白い花をつける。

【分布の状況】

市内 市内では、過去に湿地に生育していたが、今回の市内現地調査では確認できなかった。

その他 本州（関東地方以西）から九州にかけて分布する。



撮影：市域内
写真提供：(全体) 笹川 通博
(拡大) 石澤 進

【減少等の原因】

水湿地の減少, 農地の改変, 観光開発

ズミ

バラ科

Malus toringo (Sieb.) Sieb. ex de Vriese

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 —	環境省 —
-------	---------------	----------	----------

【選定理由】

減少

【形態など】

落葉低木。樹高は6～8m。葉は柄があり、互生し、長楕円形から楕円形で、先は尖り、基部は円形かくさび型で、長さは4～10cm。小枝は紫色を帯び、しばしば刺に変わる。花期は4～6月で、新しい枝先に白色あるいは淡紅白色の花を3～7個つける。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、過去に新潟、岩室及び巻地区で確認記録がある。

その他 北海道、本州、四国、九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少、河川の改変、農地の改変



撮影：市域内
写真撮影：笹川 通博

カワラサイコ

バラ科

Potentilla chinensis Ser.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少

【形態など】

多年草。草丈は30～70cm。茎は根元から枝分かれして四方に広がり、先は斜上する。葉は羽状複生で、小葉は狭く15～29個で、間には付属の小葉片をもつ。花期は6～8月で、5弁の黄色い花を次々につける。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、新潟、岩室及び巻地区で確認記録がある。

その他 本州、四国、九州に分布する。

【減少等の原因】

草地の減少、河川の改変、農地の改変、その他



撮影：市域外
写真提供：笹川 通博

ワレモコウ

バラ科

Sanguisorba officinalis L.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少, 採取

【形態など】

多年草。草丈は30～100cm。葉は長楕円形から卵状楕円形で、長さは4～6cm、小葉は2～6対からなる奇数羽状複生である。花期は8～10月で、茎先に穂状花序を出し、楕円球状または直立円筒状で赤褐色の花を多数つける。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、過去に新潟地区で確認記録がある。

その他 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する

【減少等の原因】

人の立入, 採取, 草地の減少, 観光開発



撮影：市域外
写真提供：石澤 進

ミヤマウメモドク

モチノキ科

Ilex nipponica Makino

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 —	環境省 —
-------	---------------	----------	----------

【選定理由】

減少

【形態など】

落葉低木。樹高は2m。雌雄異株。葉はやや長い柄があって互生し、広倒披針形で、低い鋸歯がある。花期は5～6月で、白色の花が若枝の葉の付け根に雄花では数個から10個、雌花では1～7個が集まってつく。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、過去に新潟, 新津及び巻地区で確認記録がある。

その他 本州の日本海側に分布するが、近畿地方以西では稀である。

【減少等の原因】

水湿地の減少, 河川の改変, 農地の改変



撮影：市域外
写真提供：笹川 通博

イソスミレ

スミレ科

Viola grayi Franch. et Savat.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少

【形態など】

多年草。草丈は5～10cm。地下茎は木化して肥厚し、長く伸びて分枝し、地表へ向かう。葉は先端が尖り、基部は心形で鋸歯がある。花期は4～5月で、紫色の花をつける。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、過去に新潟、岩室及び巻地区で確認記録がある。

その他 北海道から島根県までの日本海側と北海道から青森県までの太平洋側に分布する。

【減少等の原因】

人の立入、観光開発



撮影：市域外
写真提供：石澤 進

エゾミソハギ

ミソハギ科

Lythrum salicaria L.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 —	環境省 —
-------	---------------	----------	----------

【選定理由】

減少

【形態など】

多年草。草丈は50～150cm。葉及び苞葉は基部心形で、下面は毛状の突起がある。花期は7～8月で、6弁の紫色の花が茎の上部の葉腋に集まってつく。ミソハギに比べて、本種は多毛である。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、過去に新潟、新津、岩室及び巻地区で確認記録がある。

その他 北海道、本州、四国、九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少、河川の改変、農地の改変



撮影：市域外
写真提供：笹川 通博

ヒメビシ

ヒシ科

Trapa incisa Sieb. et Zucc.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少

【形態など】

一年草，浮葉植物。葉身長は1～2cm。葉は放射状に叢生して水面に浮かび，中心部はふくれて浮き袋状になる。葉の上面が光沢のある濃緑色であり，下面にはわずかに毛がある。花期は7～10月で，6～8mmの小さな白い花をつける。果実には4つの刺がある。



撮影：市域外
写真提供：(全体, 右下) 青木 繁伸
(左下) 刈屋 寿

【分布の状況】

市内 市内では，池沼で確認されている（果実の確認のみである）。

その他 本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，農薬使用，水質汚濁

ホザキノフサモ

アリノトウグサ科

Myriophyllum spicatum L.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少

【形態など】

多年草，沈水植物。草丈は30～150cm。葉は4輪生で，先は尖り，基部は無柄である。葉は羽状に切れ込み，その裂片は糸状に細い。水中葉は黄緑色で，水上葉は濃緑色である。赤褐色の穂状花序が水面から突き出て直立し，上部に雄花，下部に雌花をつける。



撮影：市域内
写真提供：石澤 進

【分布の状況】

市内 市内では，河川付近，池沼，水路などで確認されている。

その他 北海道，本州，四国，九州，種子島，奄美大島に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，農薬使用，水質汚濁

【選定種解説】
維管束植物

タチモ

アリノトウグサ科

Myriophyllum ussuriense (Regel) Maxim.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	---------------	--------------

【選定理由】

減少

【形態など】

多年草，水生植物。草丈は50cm。茎は下部で分枝し，上部は直立して枝がない。水中葉は3～4個輪生し，披針形～広披針形で，羽状深裂する。花期は6～8月，花序は茎の先端につき，穂状，水面から出て直立する。花は淡紅色で小さい。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟地区，豊栄地区で確認記録がある。

その他 北海道，本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，観光開発，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域外
写真提供：笹川 通博

ハマボウフウ

セリ科

Glehnia littoralis Fr. Schm.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 —	環境省 —
-------	---------------	----------	----------

【選定理由】

減少，採取

【形態など】

多年草。草丈は10～20cm程度。地下茎が垂直に伸び，その上部より葉や花柄を出して砂の上で広がる。茎は多毛で，白っぽく見える。花期は6～7月で，茎の先端に複散形花序を出し，多数の白い花をつける。

【分布の状況】

市内 市内では，岩室地区や巻地区などで確認されているが，過去に比べて少なくなっている。

その他 北海道から沖縄にかけて，海岸の砂丘に分布する。

【減少等の原因】

採取，一般開発



撮影：市域内
写真提供：石澤 進

【特記事項】

昔から食用としても利用され，天ぷらや酢の物などにして食べられていた。

ヤナギトラノオ

サクラソウ科

Naumbergia thyrsiflora (L.) Rehb.

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少, 採取

【形態など】

多年草。草丈は30～60cm, 葉長は4～10cm。葉は対生し, 柄はなく, 下部の葉が鱗片状, 上部の葉が倒披針形である。花期は6～7月で, 葉腋に短く密な総状花序を出し, 小さな黄色い花を多数つける。

【分布の状況】

市内 市内では, 湖沼周辺の湿地で確認されている。

その他 北海道, 本州の中部地方に分布する。

【減少等の原因】

人の立入, 採取, 水湿地の減少, 農地の改変, 観光開発



撮影：市域内
写真提供：新潟市

ガガブタ

ミツガシワ科

Nymphoides indica (L.) O. Kuntze

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	---------------	--------------

【選定理由】

減少

【形態など】

多年草, 浮葉植物。葉長は7～20cm。浮葉は円心形から卵心形で, 葉柄基部にバナナのような房状の殖芽を形成する。花期は7～10月で, 各花弁の内側に多数の白毛を有する白い花をつける。長花柱花と短花柱花の双方が生育する集団のみ結実する。

【分布の状況】

市内 市内では, 河川や池沼周辺で確認されている。

その他 本州, 四国, 九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少, 河川の改変, 農地の改変, 農薬使用, 水質汚濁, その他



撮影：市域外
写真提供：石澤 進

アサザ

ミツガシワ科

Nymphoides peltata (S. G. Gmel.) O. Kuntze

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	---------------	--------------

【選定理由】

減少

【形態など】

多年草，浮葉植物。葉身は卵形から円形で，長さは4～12cm，縁に低い鈍鋸齒があり，基部が深く切れ込む。花期は6～9月で，葉腋から集散花序を出し，黄色の花をつける。各花弁に多数の毛がある。

【分布の状況】

市内 市内では，湖沼や池沼で確認されている。用水路でも確認されているが，植栽の可能性はある。

その他 本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，農地の改変，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：久原 泰雅

バシクルモン

キョウチクトウ科

Apocynum venetum L. var. *basikurumon* (Hara) Hara

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，局限・孤立，分布限界

【形態など】

多年草。草丈は40～80cm。茎は無毛で分枝が多い。葉は長楕円形で，長さは2～5cm。主幹の葉は互生するが，枝の葉はほとんど対生する。花期は7月で，茎の先に円錐花序を出し，紫紅色の花をつける。

【分布の状況】

市内 市内では，海岸付近で確認されている。

その他 北海道，青森県，新潟県に分布し，本市が分布南限となっている。

【減少等の原因】

人の立入



撮影：市域内
写真提供：刈屋 寿

【特記事項】

佐渡弥彦米山国定公園特別地域内指定植物
新潟市文化財保護条例指定